右腋窩の乳房外 Paget 病の 1 例

大橋 則夫 荻原 護久 陳 怡如 遠藤真沙子
 関東 裕美 伊藤 正俊 林 健

東邦大学医学部皮膚科学第一講座

要旨 80 歳，男性。脂漏性湿疹，爪甲白癬にて当院皮膚科外来通院中であったが，2007 年 8 月右腋窩に紅斑が出現しているのに気付き，8 月 30 日の受診時にその旨を訴えた。受診時右腋窩に自覚症状を欠く鶏卵大くらいの境界不鮮明な浸潤を触れない紅斑がみられた。外用薬による治療を 2 ヶ月間続けたが皮膚症状は変化しなかった。皮膚生検の結果，表皮内に明るい胞体を有する異型細胞が多数みられた。陰茎包皮と陰囊皮膚に淡い紅斑を認めたため，数箇所より生検を行ったが，異型細胞はみられなかった。左腋窩，臍部，肛門周囲には肉眼的に明らかな皮膚病変はみられなかった。以上より右腋窩のみの乳房外 Paget 病と診断し，健常部を 3 cm 含め，筋膜直上で切除し，分層植皮を行った。所属リンパ節や他臓器への転移はみられなかった。腋窩のみに病変を有する乳房外 Paget 病は稀と思われ，報告する。

A case of extramammary Paget's disease of the right axilla

Norio OOHASHI, Morihisa OGIWARA, Yi-ju CHEN, Masako ENDO, Hiromi KANTO, Masatoshi ITO, Ken HAYASHI

First Department of Dermatology, Toho University, School of Medicine

Here, we report a rare case of extramammary Paget's disease of the axilla. An 80-year-old man had noticed an erythematous lesion on his right axilla a few weeks before visiting our hospital on August 30, 2007 with complaint of the lesion. Physical examination revealed an unclearly demarcated egg-sized erythema without infiltration on his right axilla. The erythematous lesion was biopsied and diagnosed histopathologically as extramammary Paget's disease. An erythematous lesion was also seen in his genital area, but no tumor cells were found on biopsy specimens. No erythematous lesion was seen on his left axilla. He underwent surgical excision of the erythematous lesion on his right axilla and no metastatic lesion was found. [*Skin Cancer (Japan)* 2008 ; 23 : 371-374]

Key words : Extramammary Paget's disease, Axilla

はじめに

上皮内癌の状態で治療し得た 1 例を経験したので，文献的考察を加え報告する。

腋窩のみに病変を有する乳房外 Paget 病は比較的稀であり，浸潤癌となる確率が高いと言われている。今回病変部が右腋窩のみに限局し，

症 例

患 者：80 歳，男性

主 訴：右腋窩の紅斑

既往歴・家族歴：肺結核，腰部脊椎管狭窄症，変形性膝関節症

現病歴：患者は脂漏性湿疹，爪甲白癬にて当院皮膚科外来に通院中であったが，2007年8月右腋窩に紅斑が出現しているのに気付いたため，8月末にその旨を訴えた。抗真菌外用薬，ステロイド外用薬をそれぞれ1ヵ月間外用したが，皮膚症状に変化はみられなかった。乳房外Paget病を疑い，皮膚生検を施行した。

皮膚生検時臨床所見：右腋窩に鶏卵大ほどの大きさの境界不鮮明な紅斑がみられた。浸潤を触れず，びらんと鱗屑の付着はなかった(図1)。痛み，痒みなどの自覚症状はなく，表在リンパ節の増大はみられなかった。左腋窩には肉眼的に明らかな皮膚病変はみられなかった。

図1. 右腋窩に境界不鮮明な浸潤のない紅斑を認める

検査所見：血液，尿一般検査ではCr 1.06mg/dl，尿酸8.5mg/dl，AST 51 IU/L， γ -GTP 122 U/Lと高値を示した以外は異常なく，血中CEAは3.0ng/mlで正常範囲内であった。

病理組織学的所見：右腋窩の紅斑部より生検を施行した。表皮内に異型細胞が多数みられ，腫瘍細胞が胞巣を形成している部位もみられた。個々の腫瘍細胞は表皮細胞に比べやや大型で明るい胞体を持っていた。真皮内への浸潤はみられなかった。真皮上層には小円形細胞浸潤がみられた(図2)。以上の所見より乳房外Paget病と診断した。

外陰部の臨床所見：陰茎包皮と左陰囊皮膚に淡い紅斑がみられた(図3)。数個所より皮膚生検を行ったが，腫瘍細胞を認めなかった。肛門周囲には肉眼的に明らかな皮膚病変はみられなかった。

画像所見：胸部CTにて左肺に腫瘤陰影がみられた。細胞診にて悪性細胞はみられず，呼吸器内科で経過観察中である。腹部，骨盤CTでは異常所見はみられなかった。

治療と経過：右腋窩病変の肉眼的辺縁から3 cm離れた部位より mapping biopsy を行ったが，腫瘍細胞はみられなかった(図4)。全身麻酔下で健常部を3 cm 含め，深さは筋膜直上で切除し，左大腿部より採皮してメッシュグラフトを行った。切除検体を病理組織学的に検索

a | b

図2. a. 右腋窩生検組織弱拡大像，表皮内に多数の異型細胞がみられ，一部胞巣を形成している
b. 同強拡大像，腫瘍細胞は大型で明るい胞体を持つ

図3. a. 陰茎包皮に淡い紅斑がみられる
b. 左陰囊皮膚に淡い紅斑がみられる a | b

図4. mapping biopsy 時の右腋窩の臨床像

した結果、腫瘍細胞は断端陰性で、真皮内への浸潤もみられなかった。術後経過は良好である。

考 案

石原¹⁾による全国アンケートの集計によると1987年から1991年の5年間で乳房外Paget病の総数は529例で、発生部位は重複例を含め陰部が495例(93.6%)、肛門は20例(3.7%)、腋窩は11例(2.1%)、未記入3例(0.6%)であり、腋窩のみに病変を有する例は比較的稀である。神林ら²⁾による1961年から2004年の間

の腋窩Paget病の本邦報告例110例の集計によると片側腋窩病変のみの症例が47例、片側腋窩と外陰もしくは肛門病変を有する症例が13例、両側腋窩病変のみの症例が5例、両側腋窩と外陰もしくは肛門病変を有する症例が45例と片側腋窩病変のみとtriple Paget病の報告例が多く、両側腋窩病変のみの症例が少ない。triple Paget病は他の病型に比べより報告されやすい傾向があるのかもしれない。

腋窩発生例では下床に腺癌を伴うことが多く、また転移を伴うことも多いと言われている³⁾。大草ら⁴⁾は内外の腋窩部のみの報告例41例を検討し、29%に下床に腺癌があり、27%は転移例であるとしている。また腋窩単独のPaget病はtripleやdouble extramammary Paget's diseaseの腋窩Paget病とは悪性度が異なり、浸潤癌に進行しやすいという考え⁵⁾もある。しかし腋窩単独のPaget病として報告された症例の中には、実際にはPaget現象を伴ったアポクリン腺癌が相当数含まれていることも想像され、そう考えればこれらの現象も説明できる。山中ら⁶⁾の最近の本邦報告例の検討によれば腋窩例と外陰部例との間に浸潤癌の頻度における差は認められていない。

乳房外 Paget 病と他臓器の悪性腫瘍の合併については、山中ら⁶⁾によれば 201 例中 30 例 (14.9%) に認められている。内訳は胃癌が 10 例と最も多く、大腸または直腸癌が 5 例、肺癌が 4 例、前立腺癌が 3 例、子宮癌、膀胱癌が 2 例ずつ、その他 7 例であった。一方大草ら⁴⁾によると、腋窩のみの発症例には乳房外 Paget 病の診断時に他臓器に悪性腫瘍が見出された症例は皆無とされており、腋窩例は外陰部例に比べ他臓器悪性腫瘍を合併しにくいのかもしれない。しかしその後肺癌合併例³⁾、甲状腺癌合併例⁶⁾など報告されており、自験例も悪性ではないが肺腫瘍の合併があり、腋窩 Paget 病の場合も他臓器悪性腫瘍の検索を積極的に行うのが望ましいと考えられる。

大西ら⁷⁾は腋窩に病変を有し、複数の部位に出現した Paget 病 16 例を集計し、両側腋窩例 1 例を除く腋窩と外陰部病変を有する 15 例中外陰病変に先行して腋窩の病変が存在したのは 1 例のみと報告している。腋窩病変に外陰部病変が続発することは少ないのかもしれないが、

後年このような症例の追加報告もみられる²⁾。自験例のような片側腋窩単発例に対しては、対側腋窩や外陰部に対しても今後慎重に経過を観察していく必要があると考えられる。

文 献

- 1) 石原和之：皮膚がん前駆症 Paget 病 全国アンケートの集計と説明. *Skin Cancer*, 9 : 37-43, 1994
- 2) 神林靖子, 小島実緒, 福永有希, 他：右腋窩の乳房外 Paget 病の 1 例. *臨床皮膚科*, 60 : 168-170, 2006
- 3) 森 理, 長治順子, 井上光世, 他：片側腋窩 Paget 病の 1 例. *皮膚科の臨床*, 41 : 823-825, 1999
- 4) 大草康弘, 長島正治：両側腋窩 Paget 病. *臨床皮膚科*, 43 : 281-284, 1989
- 5) 大草康弘, 田中 信, 古川隆代：腋窩 Paget 癌. *臨床皮膚科*, 48 : 1029-1032, 1994
- 6) 山中快子, 加藤直子, 谷村心太郎, 他：腋窩乳房外 Paget 病と腋窩・外陰 double Paget 病. *臨床皮膚科*, 60 : 1046-1048, 2006
- 7) 大西誉光, 大西泰彦, 大原國章：腋窩 Paget 病の 1 例. *皮膚科の臨床*, 36 : 219-222, 1994